

桜蔭俳話会 十二月句会 (第三五一回)

平成二十八年十二月十八日(日)
会場・旭区民文化センター(サンハート)

- 3点①母の咳ベッドの軋む音しきり 邦子
- 3点 白亜紀もジュラ紀も遠し冬木の芽 明美
- 3点 米櫃に米なき夜の根雪かな 明美
- 3点 山道を走る阿闍梨の息白し 眞壽
- 3点 岩肌に彫られし仏山眠る 友子
- 3点 短日やあぐらの中に猫二匹 幸
- 2点②瞬けば両の目玉の寒あらた 守
- 2点①暖炉やさし庭に薪積むレストラン 友子
- 2点①白息や少年は背になにもかも 朋子
- 2点 地の塩にあれとひと言息白し 守
- 2点 免疫のたちまち下がり風邪六日 明美
- 2点 ひと筆のふみあたたかし十二月 朋子
- 2点 目標の歩数まだまだ息白し 友子
- 1点①電車待つ黄色の線や息白し 守
- 1点①バス降りて人の散りゆく息白し 邦子
- 1点①手際よき母想ひつつ年用意 友子
- 1点①息白し空手の突きのかたち美し 明美
- 1点 登校のみだれる列や息白し ツル子

- 1点 帰り道大根を買ふ山ガール ヤエ子
- 1点 カラオケの終りし耳にならひ吹く かおる
- 1点 灯油売りの音近くして路地小春 ツル子
- 1点 まもなく上映膝掛を自由に 朋子
- 1点 オリオン座定年のなき主婦の力 幸
- 1点 悠然と回る風車や年の暮 ヤエ子
- 1点 木の葉降るテーブル増すやテラス 席 朋子
- 1点 日記果つ五十年の悲喜はるかなり 幸
- 1点 冬の蚊の一撃後の何もなし ツル子
- ※ アメリカの落日近し冬紅葉 眞壽
- 住所録に死去と書き込む年の暮 ヤエ子
- 初霜や逸り立つ君転倒か 直子
- 父の忌や夢に出で立つ雪の朝 かおる
- 静かなり雪かきせむと眠られず かおる
- 編集の耳に懸けらるペン冴ゆる 明美
- 先生の子らの半袖山眠る 朋子
- 息白しゴミ掃く人散らす人 守
- ランドセル小走りの子等息白し 直子

【事務局からお知らせ】

○第一二四回通信句会作品募集

冬・新年の季語を用いた三句。締切りは二月四日（土）。同封の葉書でお送りください。

○新年食事会と一月句会

（食事会）一月二十九日（日）十一時三十分から二俣川駅ライフ四階の「仕立屋」で行います。
（句会）新年食事会終了後、一時から、五階の旭区民文化センター（サンハート）で行います。
兼題は、「日脚伸ぶ」です。

○二月の句会は休みです。

○三月句会

三月二十六日（日）午後一時から、旭区民文化センター（サンハート）にて。

情念の想ひ届かぬ浜千鳥
眞壽
荷の重き小学生の息白し
かおる
友と出で夕べに急ぐ十二月
ツル子
賭け事は今年限りと年の暮
眞壽
電飾は幻の世や冬ざるる
友子
年末は飲み放題で締めくくる
直子
静けさや赤子の泣き声冬の夜
邦子
白い息父娘の散歩笑い声
幸
小春日の公園で合ふ秋田犬
直子
冬めくや空室ビラのくすみあり
かおる
枯桜の幹の威圧に触れてみむ
ヤエ子
山里に光る聖樹や旅更けし
ツル子
隣国は長い竹串おでんかな
直子
黄昏や塊の如くに枇杷の花
眞壽
千支年賀ぬいぐるみ服のまわし撮
り
幸
パチンコ店着ぶくれの列おろかな
ヤエ子
廃炉費の青天井や息白し
守
（不在投句 古野明美、松浦か
おる）